

- 問1 当時の記録において「入道相国（にゅうどうしょうこく）」や「六波羅殿」と称された人物に関する記述として、正しいものを次の中から選りなさい。（2026年 埼玉県公立入試 類似）
1. 武士でありながら公家のような性格を併せ持ち、日宋貿易による経済力を背景に政治を動かした。
 2. 執権の地位を確立し、北条氏による独裁体制の基礎を築いた。
 3. 承久の乱において朝廷側の軍勢を破り、西国の監視と朝廷の統制のために六波羅探題を設置した。
 4. 関東を拠点として武士の支持を集め、征夷大將軍として鎌倉に幕府を開いた。
- 問2 遣唐使の停止を建議した人物のその後の経緯について述べた文として、正しいものはどれですか。（2026年 福島県公立入試 類似）
1. 藤原氏との政争に敗れて九州の大宰府へ左遷されたが、死後は「学問の神」として祀られた。
 2. 唐に渡って最新の仏教を学び、帰国後に高野山で真言宗を開いて文化の発展に貢献した。
 3. 宋との貿易を重視して神戸の港を整備し、武士として初めて太政大臣の地位に就いた。
 4. 娘を天皇のきさきとすることで摂政・関白の地位を独占し、藤原氏の全盛期を築いた。
- 問3 平安時代の社会や文化に関する記述として誤っているものを、次の選択肢から一つ選りなさい。（2024年 青森県公立入試 類似）
1. 念仏を唱えて阿弥陀如来にすがり、極楽往生を願う浄土信仰が広まった。
 2. 漢字をくずしたかな文字が使われるようになり、女性による文学が栄えた。
 3. 商品作物として木綿が広く栽培され、庶民の衣服として一般に普及した。
 4. 地方政治の乱れから、関東地方で平将門が反乱を起こした。
- 問4 平安時代中期から後期にかけて、藤原頼通が建立した平等院鳳凰堂や、奥州藤原氏が建立した中尊寺金色堂など、華麗な装飾を施した阿弥陀堂が各地に作られました。これらの建築物が造営された当時の社会的な背景や目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2024年 宮城県公立入試 類似）
1. 武士が政治の実権を握り始めたため、力強さや素朴さを重んじる新しい仏教の形を象徴する建物として作られた。
 2. 釈迦の教えが衰えるという末法思想の影響で社会不安が広がり、阿弥陀如来にすがって死後の救済を求める浄土信仰が普及したため。
 3. 唐の先進的な文化を積極的に取り入れるため、遣唐使が持ち帰った最新の建築様式を模倣して作られた。
 4. 仏教の力で国家の安泰を祈願するため、聖武天皇が国分寺を全国に配置した一環として造営された。
- 問5 平安時代に藤原道長が全盛期を築いた「摂関政治」において、藤原氏が政治の実権を握り続けることができた仕組みとして、最も適切なものはどれですか。（2020年 長野県公立入試 類似）
1. 地方の武士を都に集めて軍勢力を強化し、天皇を武力で威圧することで、無理やり政治の全権を委譲させる仕組み
 2. 天皇が位を譲って上皇となったあとも、政治の窓口である「院」において実権を握り続け、藤原氏を排除する仕組み
 3. 家柄に関係なく、試験によって優秀な人材を官僚として採用し、藤原氏の配下として政府の要職に配置する仕組み
 4. 自分の娘を天皇の后とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の母方の祖父として政治を補佐する仕組み
- 問6 平安時代の政治において、藤原氏による摂関政治が全盛期を迎えていた時期の社会背景について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2019年 滋賀県公立入試 類似）
1. 禅宗の影響を強く受け、水墨画や茶の湯などの簡素な美しさを尊ぶ文化が形成された。
 2. 大陸文化の影響を消化し、かな文字による文学や日本独自の美意識が反映された文化が発展した。
 3. 武士が政治の実権を握り、素朴で力強い文化が東国を中心に広まった。
 4. 遣唐使を通じて唐の進んだ制度や仏教文化を積極的に取り入れ、国際色豊かな文化が形成された。
- 問7 平安時代の政治状況について、ドイツ出身のエマさんと日本の高校生が会話をしています。この時代の地方政治の実態を説明する内容として正しいものはどれですか。（2023年 奈良県公立入試 類似）
1. 全国の農村で二毛作が一般化し、経済的に豊かになった農民が国司の権限を代行するようになった。
 2. 一部の有力な国司は受領と呼ばれ、任地に赴いて徴税に励む一方で、私的な蓄財を行うなど地方政治が混乱する要因となった。
 3. 国司は中央から派遣される役人であったが、この時期にすべて武士へと置き換わり、封建的な主従関係が確立した。
 4. 地方政治の乱れを解決するため、天皇が直接地方を統治する親政が始まり、国司制度は完全に廃止された。
- 問8 平安京を都とした平安時代に関する説明として、菅原道真の経歴や背景を踏まえて正しい内容述べているものはどれですか。（2023年 鳥取県公立入試 類似）
1. 菅原道真は唐の高度な制度を学ぶため、第1回の遣隋使として大陸へ渡った。
 2. 菅原道真は藤原氏と協力して摂関政治を確立し、天皇に代わって政治の実権を握った。
 3. 学問に優れた菅原道真は右大臣に登用されたが、のちに藤原氏によって大宰府へ送られた。
 4. 菅原道真は源頼朝の命を受け、山口県を含む西国一帯の守護に任命された。
- 問9 菅原道真が遣唐使の停止を建議したことによって、その後の平安貴族の生活や文化にどのような影響を与えましたか。最も適切な説明を選びなさい。（2023年 北海道公立入試 類似）
1. 大陸の文化を日本の風土や好みに合わせて消化・吸収した、日本独自の国風文化が発達した。
 2. 唐の先進的な土木技術を導入したことにより、全国で大規模な開墾が進み、班田収授の法が厳格に運用された。
 3. 中国の律令制度をそのまま導入することで、天皇を中心とする中央集権的な政治体制が完成した。
 4. 日本独自の文字である「かな文字」の使用が禁止され、すべての公文書を漢文で記す習慣が定着した。
- 問10 平安時代の藤原氏と皇室の系図を読み取ると、藤原氏の娘たちが天皇のきさきとなり、その間に生まれた子どもが次の天皇として即位する血縁関係が繰り返し見られます。この関係を利用して藤原氏が政治の実権を握った仕組みの説明として、最も適切なものを次のうちから1つ選りなさい。（2026年 熊本県公立入試 類似）
1. 地方の有力な武士と主従関係を結び、軍勢力を背景に朝廷を統制する仕組み。
 2. 天皇が位を退いて上皇となり、院庁を開いて政治の実権を握る仕組み。
 3. 武士の棟梁が幕府を開き、朝廷から政権の委任を受けて全国を支配する仕組み。
 4. 天皇の母方の親戚（外戚）の立場を利用して、摂政や関白に就任し政治を行う仕組み。
- 問11 藤原道長を中心とした当時の家系図を見ると、道長の娘たちは一条天皇、三条天皇、後一条天皇、後朱雀天皇らと婚姻関係にあり、次々と皇子をもうけています。このような婚姻を通じた政治体制において、天皇が幼少の間に、天皇に代わって政治を行う職を何と呼びますか。（2025年 岡山県公立入試 類似）
1. 征夷大將軍
 2. 太政大臣
 3. 摂政
 4. 関白

答え合わせ・解説

問1	答え 1 武士でありながら公家のような性格を併せ持ち、日宋貿易による経済力を背景に政治を動かした。	「入道相国」は出家して太政大臣となった平清盛を指す言葉です。彼は六波羅に邸宅を構えたため「六波羅殿」とも呼ばれました。清盛の政治は、武力だけでなく朝廷の官位や外戚関係、貿易による富を利用したものであり、のちの鎌倉幕府のような純粋な武家政治とは異なる、公家的な要素を強く持っていました。
問2	答え 1 藤原氏との政争に敗れて九州の大宰府へ左遷されたが、死後は「学問の神」として祀られた。	菅原道真は優れた学者として右大臣にまで昇進しましたが、藤原時平の策謀により大宰府（福岡県）へ左遷され、その地で没しました。死後は天神様として信仰の対象となり、現在は北野天満宮や太宰府天満宮などで学問の神として祀られています。
問3	答え 3 商品作物として木綿が広く栽培され、庶民の衣服として一般に普及した。	木綿が商品作物として広く栽培され、庶民の衣服として普及したのは江戸時代に入ってからである。平安時代の庶民の衣服には、主に麻などが使われていた。平将門の乱、浄土信仰の広まり、かな文字による文学の発達は、いずれも平安時代の出来事であるため、これらは正しい記述である。
問4	答え 2 釈迦の教えが衰えるという末法思想の影響で社会不安が広がり、阿弥陀如来にすがって死後の救済を求める浄土信仰が普及したため。	平安時代中期には、釈迦の死から時間が経過して正しい教えが廃れるとされる「末法」の時代が来ると信じられ、人々の間に不安が広がりました。これを受けて、念仏を唱えて阿弥陀如来にすがり、死後に極楽浄土へ行くことを願う浄土信仰が貴族から民衆へと広まりました。平等院鳳凰堂や中尊寺金色堂は、その理想の世界を地上に再現しようとしたものです。
問5	答え 4 自分の娘を天皇の后とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の母方の祖父として政治を補佐する仕組み	藤原氏は、娘を天皇の后（きさき）にするという婚姻関係を繰り返すことで、天皇との親戚関係（外戚関係）を築きました。これにより、天皇が幼少のときは「摂政」、成人したあとは「関白」という役職に就き、政治の実権を独占しました。藤原道長は4人の娘を次々と天皇の后にすることで、この体制の全盛期を築きました。選択肢にある武力による支配や、天皇の退位後に実権を握る院政とは異なる、婚姻を軸とした政治体制です。
問6	答え 2 大陸文化の影響を消化し、かな文字による文学や日本独自の美意識が反映された文化が発展した。	摂関政治の全盛期は国風文化の円熟期にあたります。この時期、紫式部による『源氏物語』や清少納言による『枕草子』といった、かな文字を用いた文学作品が誕生しました。また、建築面では阿弥陀如来を祀る平等院鳳凰堂が建立されるなど、日本の風土に根ざした貴族文化が花開きました。
問7	答え 2 一部の有力な国司は受領と呼ばれ、任地に赴いて徴税に励む一方で、私的な蓄財を行うなど地方政治が混乱する要因となった。	平安時代の国司には、任地へ行かない遙任のほかに、実際に任地に赴く「受領」もいました。受領は徴税の権限を強く持ち、私欲を肥やす者も多く現れたため、農民がその暴政を訴えるなど、地方政治の混乱が深刻化しました。武士の主従関係や二毛作の一般化は後の時代に見られる特徴です。
問8	答え 3 学問に優れた菅原道真は右大臣に登用されたが、のちに藤原氏によって大宰府へ送られた。	菅原道真は、藤原氏の権力が強まる中で天皇に重用されましたが、それを快く思わない藤原時平らの陰謀によって、九州の大宰府へと左遷（流罪）されてしまいました。彼の悲劇的な生涯と優れた学識が、のちの天神信仰（学問の神様としての信仰）へと繋がっています。
問9	答え 1 大陸の文化を日本の風土や好みに合わせて消化・吸収した、日本独自の国風文化が発達した。	遣唐使の停止により、大陸からの直接的な文化の流入が制限されました。これにより、それまでに取り入れた唐風の文化を、日本の気候や日本人の感性に合うように作り変える動きが強まりました。その結果、かな文字の使用や、寝殿造、大和絵、和歌の隆盛といった「国風文化」が花開くことになりました。
問10	答え 4 天皇の母方の親戚（外戚）の立場を利用して、摂政や関白に就任し政治を行う仕組み。	藤原氏は自分の娘を天皇のきさきにし、生まれた子どもを次の天皇に立てることで、天皇の母方の親戚（外戚）という立場を確立しました。この血縁関係を背景にして、天皇が幼いときは摂政、成人してからは関白となって政治の実権を握りました。
問11	答え 3 摂政	藤原道長は、4人の娘を次々と天皇の后にすることで、3人の天皇の祖父となることに成功しました。このように天皇の母方の親戚（外戚）として、天皇が幼い時に代わって政治を行う職を「摂政」と言います。天皇が成長した後に、天皇を補佐して政治を行う職は「関白」と呼ばれます。